



おろしやくこくひょうはくききがき

魯西亞国漂船聞書 (磯吉 いそきち 1792-1828年)

船乗りたちのシベリア横断1万キロ!

これは誰のことでしょうか?



サンクトペテルブルクからやっと江戸に帰ってくることができました。ロシアの服も仕立ててもらいました。さて、私は誰でしょう。

シベリアを横断するときの移動手段は何だったのでしょうか。さすがにずっと徒歩で横断...というわけにはいきません。特に冬は想像を超える雪と寒さが襲ってきます。冬は、どうやら「**犬ぞり**」で移動をしていたようです。楽しそう♪と思いきや、犬ぞりでの移動はかなりきついものだったようです。

【どんな人?】
大黒屋光太夫 (だいくやこうだゆう、1751~1828)は、伊勢国白子(現在の三重県鈴鹿市)の港を拠点にしていた輸送の船長です。

【なにがあった?】
1782年、光太夫たち17名を乗せ、伊勢から江戸を目指して出港した船が暴風により遭難します。7か月間漂流した後、アムチトカ島に着きました。その後、カムチャツカからサンクトペテルブルクへと長い旅をします。エカチェリーナ2世と面会し、ロシア船での帰国が許され、10年後の1792年にようやく北海道へたどり着きます。

日本帰国(根室に到着)に至るまで17人いた船員は光太夫、磯吉、小市の3人になってしまいました。さらに根室で小市が亡くなり、江戸に着いた時には2人になってしまいました。